

# 治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町  
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664  
ホームページ <http://zensuiren.org/>  
お問い合わせ [zensuiren@k2.dion.ne.jp](mailto:zensuiren@k2.dion.ne.jp)  
編集・発行 椿本和幸



© 祝竣工 津軽ダム 国土交通省東北地方整備局

## ● 目 次

平成28年度四国地方治水大会	2
平成28年度北陸地区治水大会	7
津軽ダムの竣工式について	13

# 平成 28 年度四国地方治水大会

と き：平成 28 年 10 月 25 日 (火)  
と ころ：高知会館

## 第 15 回四国地方治水大会 次第

(敬称略)

開会宣言	高知県土木部長	福田敬大
第一部 特別講演		
「治水事業における環境配慮」	高知大学防災推進センター准教授	張 浩
第二部 四国地方治水大会		
主催者挨拶	高知県副知事	岩城孝章
	全国治水期成同盟会連合会会長	陣内孝雄
来賓祝辞	国土交通省四国地方整備局長	名波義昭
	高知県議会副議長	梶原大介
来賓紹介		
座長推挙	香南市長 (全国治水期成同盟会評議員)	清藤真司
治水事業概要説明	国土交通省水管理・国土保全局治水課 河川整備調整官	齋藤博之
	国土交通省四国地方整備局河川部長	西井洋史
意見発表	日高村長	戸梶眞幸
大会決議	高知市長	岡崎誠也
次期開催県挨拶	愛媛県土木部長	頼木清隆
閉会		

### 開会宣言



高知県土木部長  
福田 敬大

### 第 1 部 特別講演



高知大学防災推進センター  
准教授  
張 浩

「治水事業における環境配慮」と題しまして、河川における治水、防災と環境についてご講演いただきました。

### 第 2 部 四国地方治水大会

#### ■ 主催者挨拶



高知県副知事  
岩城 孝章

皆さん、こんにちは。県外から来られました皆様方、ようこそ高知へお越しをいただきました。こんなに多くの皆さん方参加のもと、「第 15 回四国地方治水大会」が開催されます。本来ですと知事が出席をして直接皆さん方にご挨拶すべきところではございますが、あいにくと、出張のため、出席ができません。皆様方にくれぐれもよろしくということで式辞を預かっておりますので、代わって私のほうからご披露をさせていただきます。

皆様、ようこそ高知県へお越しくださいました。県民を代表して心から歓迎申し上げます。本日、治水事



業に携わっておられます四国各県の皆様方を多数お迎えして、このように盛大に「第 15 回四国地方治水大会」が開催できますことを、大変うれしく思います。

また、皆様には、日ごろから治水事業の推進をはじめ、四国地方の発展のために多大なるご支援、ご尽力をいただいておりますことに、深く感謝を申し上げます。

さて、近年は、全国的な傾向として、地球温暖化の影響とも言われる気候変動により、集中豪雨の増加や台風の巨大化、また、一方で、渇水の増加なども指摘をされています。

今年 4 月には、大震災に見舞われた熊本県では、その傷も癒えぬ 6 月に梅雨前線による災害が発生しました。8 月には北海道に相次いで 3 つの台風が上陸をし、東日本から北海道にかけて甚大な浸水被害が発生しました。同じく本県や徳島県でも、台風 16 号の来襲により、各地で浸水被害が発生しました。

他方、四国では、8 月までの降雨が少なく、各地で渇水の心配があり、住民の日常生活や経済活動に影響を及ぼすのではないかと懸念していたところであります。

こうした水害や渇水から住民の皆様の生命と財産を守り、活力ある安全で安心な生活を実現するためには、河川環境にも配慮しながら治水や利水施設の整備を推進するとともに、施設の適切な維持管理を行っていくことが極めて重要であると考えています。

また、本県では、南海トラフの巨大地震に備えた対策が急務となっております。県では、まずは、防災直後の「命を守る」ための対策の徹底を図っており、河川堤防や水門などの地震・津波対策についても重点的に取り組んでいます。この地震への備えについては、四国 4 県での連携をさらに深めていくことも大切であると考えております。

本日、四国各地から治水に携わる皆様が一堂に会し、洪水などの災害から生命や財産を守り、豊かな生活環境と、安全で活力ある社会を実現するために、意見発表や決議がなされることは、誠に意義深いことです。

皆様には、この大会を契機に、四国各県の力を結集するとともに、四国地方の治水・利水施設の整備促進に向け、なお一層のご支援、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

ところで、本県では観光キャンペーンとして、本年は「奥四万十博」、そして来年 3 月からは、大政奉還から 150 年を記念して「志国高知 幕末維新博」を開催いたしますので、ぜひ、多くの人にお越しをいただき、土佐の風土・文化や地域の人々、食・自然を体験し、楽しんでいただきたいと思います。

最後になりますが、ご参会の皆様の今後ますますのご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

平成 28 年 10 月 25 日。高知県知事尾崎正直。代読。



全国治水期成同盟会  
連合会会長  
陣内 孝雄

挨拶は省略させていただきます。

## ■ 来賓祝辞



国土交通省  
四国地方整備局長  
名波 義昭

名波 ただ今ご紹介いただきました四国地方整備局長の名波でございます。

第 15 回四国地方治水大会の開会にあたり、お祝いを申し上げます。平素より皆様方にはおかれましては、国土交通行政の推進にあたり、格段のご支援とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、本年は 8 月の北海道、東北地方における記録的豪雨などにより、多くの尊い人命が失われ、深刻な被害が発生しています。四国地方においては、平成 26 年 8 月の台風により、徳島県、高知県の多いところで 10 日間に 2,000 ミリを超える大雨を記録し、四国各地で甚大な被害が発生しました。

本年 9 月には、四万十川の支川、中筋川において台風 16 号の接近に伴い、一日の降水量が観測開始以来最大を記録し、沿線で浸水被害が発生しました。この出水においては、中筋川ダムの洪水調節により、河川の水位を約 125 センチメートル低下させ、堤防からの越水や決壊を回避し、効果を発揮しました。

四国地方整備局においては、このような自然災害から生命や財産を守り、治水対策を推進しているところであります。

無堤地区の解消に向けた堤防整備や、南海トラフ地震、津波への備えとして、堤防の液状化対策、水門・樋門の耐震化などを進めるとともに、平成 26 年の台風により深刻な浸水被害を受けた仁淀川と那賀川において、放水路トンネルの整備や堤防整備などの再度災害防止対策を緊急的に実施しています。また、鹿野川ダムなどの改造の早期完成に向けて整備

を推進するとともに、横瀬川ダムなどの建設事業を着実に進めてまいります。

さらに、平成 27 年の関東・東北豪雨による深刻な浸水被害を踏まえ、「施設では守りきれない大洪水は必ず発生する」との考え方に立ち、水防災意識社会を再構築する取り組みを進めており、河川管理者や流域の自治体など、関係機関が連携してハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進してまいります。

今後とも治水事業を着実に進めるとともに、災害発生時における迅速、かつ的確な初動体制の確立や広域的な支援体制など、危機管理対応力の強化に努め、四国の安全・安心と地域経済を支える国土づくりを一層推進してまいりますので、皆様方のご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びになりますが、四国地方治水大会のさらなるご発展と、本日ご列席の皆様方のご健勝を祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



高知県議会副議長  
梶原 大介

本日は、当方、この場において、武石利彦高知県議会議長よりご出席の皆様、そして、この高知にお越しくださいました皆様方に対しまして、心からの歓迎のご挨拶を申し上げるべきところではございますが、本日は、全国都道府県議会議長会が開催されており、そちらのほうに出席しており、当方への出席がございませんでしたので、皆様方にくれぐれもよろしくお伝えくださいという言付けと併せて、祝辞を預かってまいりましたので、私のほうで代読をさせていただきます。

本日ここに、第 15 回四国地方治水大会が、国土交通省をはじめ、四国 4 県の関係者の皆様、多数ご参会のもと、盛大に開催をされるにあたりまして、高知県議会を代表いたしまして一言お祝いを申し上げます。また、ご参会の皆様には、平素から四国地方の治水関係事業の推進に格別のご尽力を賜っており、心から敬意と感謝を表する次第でございます。

さて、私たちの住む四国地方は、急峻な地形を有する四国山地によって、その南と北では、治水事業も全く異なった取り組みが求められているかと存じます。

高知県や徳島県におきましては、台風や集中豪雨による被害が繰り返されてまいりました一方で、愛媛県や香川県では、渇水対策も重要な治水事業になってございます。

特に近年では、地球温暖化の影響と考えられる異常気象が頻発をし、全国各地で降雨量の観測記録を更新するなど、甚大な水害や土砂災害の発生は深刻度を増しております。

こうした自然災害はもとより、その発生が差し迫っているとされており、南海トラフ地震による津波から、住民の生命・財産を守り、災害に強い県土づくりを実現することも、私たちにとって喫緊の課題でございます。

また、自然志向や環境意識が高まる中、四国地方が有する豊かな自然環境の保全を図りながら治水事業を進めることが求められております。

こうした中で、四国 4 県の治水事業に関わる皆様方が一堂に会され、四国地方の治水事業について、広域的な見地からご協議や意見発表などをいただきますことは、大変意義深く、皆様の活動に寄せる住民の期待は誠に大きなものがございます。

どうか皆様方には、「四国はひとつ」の合言葉のもと、四国 4 県が緊密な連携を図り、それぞれの地域の実情を踏まえた治水事業の推進に、より一層のご尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

結びになりますが、本大会のご成功並びに四国地域の益々のご発展を祈念いたしますとともに、ご参会の皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

平成 28 年 10 月 25 日。高知県議会議長、武石利彦。代読でございます。

本日は誠にありがとうございました。

## ■ 座長推挙



香南市長  
全国治水期成同盟会  
評議員  
清藤 真司

## ■ 治水事業概要



国土交通省  
水管理・保全局  
治水課  
河川整備調整官  
齋藤 博之

「治水事業に関する最近の話題」についてご説明い



いただきました。



国土交通省  
四国地方整備局河川部長  
西井 洋史

「四国地方における河川事業の概要」について、ご説明をいただきました。

## ■ 意見発表



日高村村長  
戸梶 眞幸

現在、日高村で実施されている「仁淀川床上浸水対策特別緊急事業(日下川)」及び、村で盛んなトマト園芸による村の活性化の取り組みについてご説明いただき、地方創生のためにも、インフラ施設整備による地域の安全・安心の確保が重要であり、今後のさらなる支援、ご協力を賜りたいとのご意見を頂きました。

## ■ 大会決議



高知市長  
岡崎 誠也

四国地方は急峻な山地が多く、地質が脆弱であるとともに、台風常襲地帯に位置するため、古くから大雨による浸水被害に苦しめられてきている。過去 20 年間の四国地方一人当たりの水害被害額が全国平均に比べて約 3 倍という、甚だしく苛酷な状況にあることは、忍耐の限度を越えるものと言わざるを得ない。

平成 16 年には、6 つの台風が相次いで四国に上陸したことにより、洪水や土砂災害が多発し、尊い人命が失われるなど甚大な被害が発生した。近年においても、平成 26 年の台風第 12 号、11 号による大雨により、多いところでは、わずか 10 日間で 2,000 ミ

リを超える記録的な降雨を記録し、各地で重大な浸水被害が発生している。昨年の台風 11 号では徳島県的那賀川が氾濫、本年も台風第 16 号により、那賀川流域の桑野川や高知県渡川流域の中筋川支川が氾濫するなど、浸水被害が連続して発生する極めて深刻な状況となっている。

全国的には昨年の関東・東北豪雨による鬼怒川の破堤や、本年の東北、北海道にかけての大雨による多数の河川の氾濫など、従来の想定を超えるような記録的豪雨による被害が発生している。

このような災害による被害を防ぐためには、治水事業の推進はもとより、四国の極めて厳しい自然条件と、全国に先駆けて進行している高齢化なども踏まえ、「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく取り組みを広く推進し、予防的な治水施設の整備をはじめ、最大規模の降雨による洪水を想定し、円滑な避難行動や、災害時に迅速に対応できる危機管理体制の強化を早急に進めることが求められている。

他方、四国地方では、長きにわたり長時間の断水を余儀なくされた平成 6 年の大渇水に加え、平成 17 年や 20 年にも、早明浦ダムの利水容量が底をつくなど、渇水も頻発しており、各地で人々の日常生活や社会経済活動に計り知れない被害や影響を及ぼしている。

今後、地球温暖化の進行により、台風の大型化や豪雨の激化に加えて渇水の頻発化などの両極端な厳しい気候変動を招く可能性が指摘されており、今後の更なる浸水被害や渇水被害の発生が懸念されるところである。

更に、南海トラフにおける今後 30 年以内の地震発生確率は 70% 程度と、その切迫度は年々高まっている。平成 23 年の東日本大震災や本年の熊本地震での経験から、巨大地震災害は一度発生すれば、極めて甚大な被害が予想され、早急な地震・津波対策も不可欠なものとなっている。

一方、良好な水辺空間をはじめ心癒される自然環境が多数残されており、地域と一体となった四国ならではの豊かで潤いのある水辺環境の保全と創出が望まれているところである。

治水事業は、洪水等の災害から国民の生命と財産を守り、地域住民の生活や生産活動の安定化・活性化を支える最も根幹となる社会資本整備である。四国における地方創生の推進や人口減少の克服のためにも、治水施設の整備や既存施設の機能維持の重要性は不変であり、治水事業は「国家百年の計」として、国が責任を持って着実に実施しなければならないものである。

しかし、近年の治水事業関係予算の確保が厳しくなっている一方で、治水関係施設の老朽化も進行し

ており、その維持管理・更新費は大きく伸びてきている。このため、地域住民の安全・安心の確保に責務を負う我々としては、このような喫緊の課題への対応に支障をきたすのではないかと危惧しているところである。

我々は、かかる事態を憂慮し、ここに四国地方治水大会を開催し、その総意に基づき、安全で安心な国土を実現し、我々の子々孫々に引き継ぐべく、次の事項を国会並びに政府に強く要望する。

四国のみならず、全国で甚大な災害が頻発している現状を鑑み、災害を未然に防止することによって国民の生命と財産を守り、安全・安心かつ豊かで活力のある国土を構築するため、必要な治水関係予算を確保し、堤防やダム等の根幹的な治水施設の整備を強力かつ計画的に推進すること。

四国の極めて厳しい自然条件により、一人当たりの水害被害額が全国平均を大きく上回る現状に対処するため、四国における治水施設の集中的な整備推進と必要な予算の確保を図ること。

近年の気候変動によって観測史上最大の降雨が各地で頻発するなど、豪雨が激化傾向にあり、予防的な治水施設整備を推進するとともに、施設では防ぎ切れない最大規模の洪水から人命を守るための対策として、洪水や高潮等の浸水想定区域図及びハザードマップ作成の支援、的確な避難誘導に資する情報提供の充実等、ハード・ソフト両面からなる防災・減災対策を強力に推進すること。

頻発する渇水に備えるため、地域の実情に応じた水資源の確保を図ること。

切迫する南海トラフ地震の発生に備え、河川堤防や水門、堰等の地震・津波対策を着実に推進すること。そのためにも、復興財源の「全国防災」の目的を引き継ぐ新たな制度を創設し、予算確保を図ること。

激化傾向にある洪水に備え、流域一体となった治水対策を積極的に進めるとともに、樋門、水門、排水機場等の河川管理施設の長寿命化を図り、既存施設の有効活用や維持管理費を含めたライフサイクルコストの縮減を図る戦略的な維持管理・更新を推進すること。

河川や水辺の持つ多様な機能や地域の特性を活かし、各地方公共団体や地域と連携し、歴史、風土等に根差した魅力ある良好な河川環境の形成を推進すること。

国土保全上並びに地方創生を実現するために、特に重要な水系については、災害から国民の生命・財産や社会経済活動が確実に守られるよう、国と地方の適切な役割分担のもと、国が責任を持って引き継ぎ河川の管理を行うこと。

防災体制の充実や防災教育、河川情報の共有化な

どの地域防災力の向上に資する施策の推進に対し、支援制度を確立するとともに、大規模災害時に「緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)」が行う広域的な防災活動に必要な装備及びシステムの充実・強化を図ること。

以上、決議する。

平成 28 年 10 月 25 日  
第 15 回四国地方治水大会

#### ■ 次期開催県の挨拶



愛媛県土木部長  
頼木 清隆

時期開催県の愛媛県よりご挨拶いただきました。

# 平成 28 年度北陸地区治水大会

と き：平成 28 年 10 月 26 日 (水)  
 ところ：富山第一ホテル

## 北陸地区治水大会次第

(敬称略)

### 第 1 部 記念講演会

平成 24 年 7 月九州北部豪雨からの復旧と創造的復興  
 ～福岡県うきは市の取り組み～ 福岡県うきは市副市長

吉岡 慎一

### 第 2 部 治水大会

開 会 富山県河川海岸協会会長 黒部市長  
 主催者挨拶 富山県副知事  
 全国治水期成同盟会連合会会長  
 開催地挨拶 富山市副市長  
 座長推挙 富山県河川海岸協会会長 黒部市長  
 来賓祝辞 国土交通省北陸地方整備局長  
 富山県議会議長

堀内康男  
 寺林 敏  
 陣内孝雄  
 中村 純  
 堀内康男  
 中神陽一  
 大野久芳

来賓紹介・祝電披露

治水・水防功労者表彰

新潟県 阿賀野川・牧川河川災害復旧工事安全対策協議会  
 長野県 新野河川愛護会  
 富山県 藪波川ホタルの里を守る会

治水事業の現状説明

国土交通省水管理・国土保全局治水課堤防構造分析官  
 国土交通省北陸地方整備局河川部長

山下武宣  
 伊藤和久  
 宮崎信一  
 笹原靖直  
 山岸 勇

意見発表

富山県魚津市産業建設部長

大会決議

富山県河川海岸協会副会長 朝日町長

次回開催県の決定・挨拶 石川県技監

閉 会

## 第 1 部 記念講演会

演 題 「平成 24 年 7 月

九州北部豪雨からの復旧と創造的復興  
 ～福岡県うきは市の取り組み～」

講 師 福岡県うきは市副市長 吉岡 慎一



講演の内容については、誠に勝手ながら掲載を割愛させていただきました。

## 第 2 部 治水大会

### 開 会



富山県河川海岸協会会長 黒部市長 堀内 康男



## ■ 主催者挨拶



■ 富山県副知事 寺林 敏

ご紹介をいただきました富山県副知事の寺林と申します。大変恐縮でございますが、石井隆一知事の出席がございませんでしたので、挨拶を代読させていただきたいと思っております。お許しいただきたいと思っております。

さわやかな実りの秋を迎えておりますが、本日、全国治水期成同盟会連合会の陣内会長さん、国土交通省北陸地方整備局長の中神様をはじめ、多くのご来賓や関係の皆様のご出席のもと、平成 28 年度北陸地区治水大会を開催できますことは、まことに喜ばしく、心から御礼申し上げます。

県外からご参加の皆様には、ようこそ富山県へお越しいただきました。県民を代表して、心から歓迎申し上げます。

また、本日、表彰を受けられます皆様には、まことにおめでとうございます。長年にわたるご功績に深く敬意を表しますとともに、今後とも一層ご尽力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、富山県は、ご承知のとおり、標高 3,000 m 級の立山連峰、水深 1,000 m の富山湾、これを直径 40km から 50km の富山平野がつなぐという大変ダイナミックな、変形した地形でございます。世界有数の急流河川を有していることでも有名であります。

この地形から多くの恵みを受ける一方で、河川はたびたび氾濫し、多くの人命や財産が奪われてまいりました。このため、郷土の先人は、努力と英知を集めて水を治め、活用し、今日の発展を築いてきたのであり、富山県の歴史は、まさに「水との闘い」の歴史と言われております。

また、昨年の鬼怒川の氾濫や今年の台風 10 号による被害をはじめ、近年、全国各地で集中豪雨等による被害が多発しております。「災害は必ずやって来る」との認識のもと、日ごろの備えが不可欠になっていると思っております。特に治水はその根幹であり、引き続き国等と連携し、しっかり取り組んでいく必要があります。

こうした中、各県で治水に尽力されておられる皆様にお集まりいただき、治水事業の推進に向け、総意を結集できますことは、まことに喜びに堪えません。

昨今の公共事業を取り巻く情勢は厳しいものがございますが、皆様には、今後とも、住民の安全・安心な暮らしを守るため、一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

また、本県には、新鮮でおいしい海の幸・野の幸・山の幸をはじめ、美しく豊かな自然、多彩な歴史・文化など、数多くの魅力がございます。県外からお越しの皆様には、このたびのご来県を機に、こうした富山の魅力の数々を存分にご堪能いただければ幸いです。

終わりに、本日の大会が実り多いものとなりますこと、そしてご参加の皆様方のますますのご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げます、挨拶といたします。

平成 28 年 10 月 26 日

富山県知事 石井隆一

代読でございます。

本日はまことにありがとうございます。



■ 全国治水期成同盟会連合会会長 陣内 孝雄

挨拶は省略いたします。

## ■ 開催地挨拶



■ 富山市副市長 中村 純

本来ですと、ここに森 雅志富山市長がお伺いしてご挨拶申し上げるべきところでございますが、本日、所用のためどうしても出席ができませんでした。私、副市長をしております中村と申しますが、挨拶を預かっておりますので、代読をさせていただきたいと思いま



す。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、平成 28 年度北陸地区治水大会が、ご来賓をはじめ関係の皆様方多数ご出席のもと盛大に開催されますことはまことに喜ばしく、心から歓迎を申し上げます。

皆様方には、日ごろからそれぞれの地域において、治水事業の推進にご尽力されておりますことに対して深く敬意を表します。また、栄えある表彰を受けられます皆様方におかれましては、長年にわたり治水事業等に対して賜りましたご努力とご労苦に心からお礼申し上げますとともに、今後とも健康に留意され、ご活躍されますことをご期待申し上げます。

さて、本年、夏の台風に伴う豪雨のように、近年、日本各地において記録的な大雨や局地的、集中的な豪雨が頻発し、激甚化した水害がたびたび発生しております。本市には、神通川や常願寺川など急流河川があり、豊かな水の恩恵を享受する一方、常に水害の脅威にさらされてまいりました。幸いにも、先人たちの治水へのたゆまない取り組みにより、近年は堤防の決壊や越流などによる氾濫などの甚大な被害は発生しておりませんが、本年 7 月には市内東部を流れる白岩川において氾濫危険水位を超え、12 年ぶりに災害対策本部室を立ち上げるなど治水対策の重要性を改めて認識したところであります。

こうした中、治水に携わる皆様方が一堂に会し今大会が開催されますことはまことに意義深く、本日も出席の皆様におかれましては、治水事業に対する私どもの切実なる思いをお酌み取りいただき、引き続きご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本市は、東に雄大な北アルプス立山連峰を望み、北は海の幸の宝庫・富山湾に面する水と緑に恵まれた自然豊かな都市です。皆様方には、この機会に、美しい自然や旬の味、さらには温かい人情にも接していただければ幸いに存じます。

終わりに、本大会のご成功と本日も出席の皆様方のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げまして、挨拶いたします。

平成 28 年 10 月 26 日

富山市長 森 雅志

以上、代読させていただきました。

本日は、おめでとうございます。

## ■ 大会座長推挙

それではここで、大会の座長を推挙したいと存じます。慣例によりまして、堀内大会会長にお願いしたいと存じますが、皆様、いかがでございましょうか。

〔拍手〕

皆様からご承認の拍手をいただきましたので、堀内大会長、よろしくお願いいたします。

【北陸地区治水大会座長 堀内康男】 ただいま大会の進行のための座長にご推挙いただき、まことにありがとうございます。

本大会が円滑に進みますよう、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

この後は、着座にて進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## ■ 来賓祝辞



■ 北陸地方整備局長 中神 陽一

北陸地方整備局長でございます。平成 28 年度北陸地区治水大会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、全国治水期成同盟会連合会並びに富山県をはじめとする関係各位のご臨席のもと、平成 28 年度北陸地区治水大会がこのように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

また、平素より国土交通行政並びに治水事業の推進に当たりまして、格別のご理解とご支援を賜っておりますことに、この場をおかりして厚く御礼を申し上げます。

北陸地方整備局管内では、平成 20 年 7 月に富山・石川両県で、そして昨年 9 月の関東・東北豪雨では関東の利根川水系、鬼怒川において堤防が決壊し大きな被害が発生したことは記憶に新しいところであります。

近年は雨の降り方に集中化、激甚化の傾向が見られるなど、国土交通省では、施設では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、社会全体で洪水に備える水防災意識社会の再構築に取り組んでいるところであります。

これを踏まえ、北陸地方整備局では、全ての直轄河川におきまして、流域ごとに河川管理者、都道府県、市町村等からなる協議会等を新たに設置し、減災のための目標や取り組み方針を定め、ハード・ソフト対策を一体的に推進してまいりたいと考えております。

さて、ここで 3 点ほど、直近の整備局の動きについてご報告をさせていただきたいと存じます。

1 点目は、TEC-FORCE の活動についてであります。

今年は幸いにも北陸地方では大きな洪水はございませんでしたが、8月の台風10号においては、東北地方から北海道にかけ、広い範囲で大きな被害が発生いたしました。北陸地方整備局からもTEC-FORCEを現地に派遣し、被災地の早期復旧、復興への支援を実施いたしました。また、4月に発生いたしました九州・熊本地震においても、同様にTEC-FORCEを派遣しているところであります。被災地で得た知見、経験を整備局内で共有するとともに、今後の災害への対応力向上につなげていく所存であります。

2点目は、ここ、開催地富山に関するものでございます。

将来に計画しております利賀ダムにつきましては、この8月25日に事業継続が決定されたところでございます。これまで生活再建関連の工事を進めてきたものですが、本体着工への道筋がいよいよ開いたものと考えております。引き続き皆様方のご支援をいただきながら着実に事業を進めてまいりたいと考えております。

3点目は、信濃川の大河津分水路の改修でございます。

おかげさまで昨年度に事業着手することができ、現在、用地補償などの地元との協議や工事用道路などの準備工事を進めているところでございます。こちらにつきましても、できるだけ早期に本格的な工事の段階に移れるよう、丁寧に地元の方々との話し合いを進めてまいりたいと考えております。

特に今触れました2つの事業につきましては、いずれも本日ご臨席の皆様の熱意によるものと深く感謝申し上げますとともに、より一層のご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

最後になりますが、本大会のご成功とご臨席の皆様方のますますのご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。



■ 富山県会議長 大野 久芳

会議議長の久野久芳でございます。

富山県が誇ります美しく雄大な山々から紅の香りがし、深まり行く秋の風情を感じる中、平成28年度北陸地区治水大会が富山県で開催されるに当たり、富山県議会を代表して、一言お祝いを申し上げます。

県外からご参加の皆様には、ようこそ富山にお越しくださいました。心より歓迎を申し上げますとともに、平素のご活躍に深く敬意を表する次第であります。

また、本日、栄えある表彰をお受けになります皆様におかれましては、まことにおめでとうございます。心からお祝いを申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

さて、富山県は、急峻な山岳地帯などの険しい地形条件により、全国でもまれに見る多くの急流河川を有しております。これらの河川はこれまで繰り返す氾濫し災害をもたらしましたが、富山県民は持ち前の勤勉性と粘り強さ、そして積極進取の気風、さらには豊かな想像力とたくましい行動力によってこれらを克服しつつ、豊富な水資源を電源開発に活用するなどして発展してまいりました。まさに、富山県の歴史は治水と利水の歴史であったと言えます。

近年、都市化の進展や局地的な集中豪雨の発生等により、いわゆる都市型水害が頻発しており、浸水等の被害を未然に防ぐための治水事業の重要性はますます増大しているであります。その一方で、人々の心に潤いと安らぎを与え、自然や水に気軽に親しむことができる水辺空間、河川空間の創出が強く求められております。

こうした中、北陸地区の治水事業に携わられる皆様が一堂に会され、治水事業の推進に向けた意見発表や大会決議が行われますことは、まことに意義深く、本日の大会の成果を大いに期待するものであります。

どうか皆様方におかれましては、今後とも安全で緑豊かな美しい郷土づくりのため一層のご尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

結びに、大会開催にご尽力されました各位に感謝申し上げますとともに、本大会のご成功並びにご参会の皆様方のいよいよのご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

本日は、まことにおめでとうございます。

皆さん、こんにちは。ご紹介にあずかりました本県



■ 治水・水防功労者表彰

■ 新潟県、阿賀野川・牧川河川災害復旧工事  
安全対策協議会



■ 長野県、新野河川愛護会



■ 富山県、藪波川ホタルの里を守る会



■ 治水事業の現状説明



■ 国土交通省水管理・国土保全局  
治水課堤防構造分析官 山下 武宣

ご説明内容は省略させていただきます。



■ 国土交通省北陸地方整備局  
河川部長 伊藤 和久

ご説明内容は省略させていただきます。

■ 意見発表



■ 富山県魚津市産業建設部長 宮崎 信一

魚津市を中心に発生した平成 26 年 7 月豪雨災害  
の状況と復旧の取組みについて発表

■ 大会決議



■ 富山県河川海岸協会副会長 朝日町長 笹原 靖直

## 決 議(案)

北陸地方の河川は、急峻な山岳地帯に源を発する急流河川が多く、集中豪雨や台風等により、毎年のように災害を繰り返している。

その中でも、平成 16 年 7 月には新潟・福島豪雨や福井豪雨、平成 20 年 7 月には富山・石川両県を襲った集中豪雨、さらに、総雨量が 1,000 ミリを超える記録的豪雨となった平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨が発生するなど、各地で大きな被害が続発したことにより、幾多の尊い生命と貴重な財産が失われた。

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨により鬼怒川の堤防が決壊した記憶も強く残るなか、今年も梅雨前線豪雨や台風 10 号などにより全国各地で災害が頻発しており、地球温暖化に伴う気候変動の影響により年々激化する自然災害に対する安全性の向上が緊急の課題であることを改めて痛感したところである。

また、平成 23 年 3 月の東日本大震災により、被災地では河川堤防や海岸堤防が液状化等によって甚大な被害を被ったほか、河川を遡上した津波が堤防を越えて、沿川地域に甚大な被害をもたらしたことや、今年 4 月の熊本地震による被害状況を踏まえ、地震・津波対策もこれまで以上に強力に推進していかなければならない。

一方、北陸地方は我が国有数の多雨多雪地帯であり、北アルプスなど山岳地帯から流れ出る清冽な水の流れは、美しい河川景観を形成し、歴史や文化を育んできたところであり、緑豊かな自然環境と潤いのある生活環境の場としての期待も大きい。

このような実情に鑑み、河川がもたらす自然の脅威から住民の生命・財産を守るため、河川改修等による治水施設の整備を着実に推進するとともに、災害発生時の被害軽減のためのきめ細かな防災情報の提供など、ソフト対策の充実を図り、加えて、豊かで美しい地域の形成に向け、潤いとやすらぎのある水辺環境の創出を図っていかなければならない。

しかしながら、昨今の厳しい財政状況のなかで、治水関係事業費が大きく縮減され、事業の推進を熱望する地域の切実な声に応えることができないことは、まことに憂慮に堪えない。

よって、私たちはここに北陸地区治水大会を開催し、その総意に基づき、次の事項の実現について国会並びに政府に対し強く要望する。

## 記

- 一 災害を未然に防止し、国民の生命と財産を守り、安全で安心な社会を実現するため、所要の治水

事業費を確保するとともに、堤防、ダム、分水等の根幹的施設の整備を計画的に推進すること。

- 一 毎年激化する洪水に備え、堤防等河川管理施設の的確な維持管理水準を確保すること。
- 一 頻発する水害や土砂災害において、被災した施設の災害復旧関係事業を着実に推進すること。
- 一 大規模地震に備え、河川堤防等の耐震対策及び津波対策を着実に推進すること。
- 一 治水対策を計画的に実施するとともに、集中豪雨等の監視や洪水予測の技術向上、防災拠点や防災情報基盤の整備など、「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく、ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を推進すること。
- 一 治水対策とあわせて安定した水資源の供給を図るためのダム事業を推進するとともに、治水機能の向上及びその機能の維持を図るため、既設ダムを有効活用したダム再生を推進すること。
- 一 地域の生産拠点や交通の要衝等を守る水害・土砂災害対策など、地域の生産性向上に寄与する水害対策を重点的に推進すること。
- 一 北陸地方の豊かな自然、美しい景観、歴史と文化に根ざした、魅力ある河川環境を創出する「多自然川づくり」を推進すること。

以上、決議する。

平成 28 年 10 月 26 日  
北陸地区治水大会

## ■ 次期開催県の決定



■ 石川県技監 山岸 勇

次期開催県の石川県よりご挨拶いただきました。



# 津軽ダムの竣工式について

国土交通省東北地方整備局  
津軽ダム工事事務所調査設計課長  
遠藤 俊彦

青森県中津軽郡西目屋村において、東北地方整備局が建設を進めている津軽ダムで竣工式を執り行いました。

津軽ダムが建設された岩木川流域は昭和 35 年に完成した目屋ダム(建設省直轄施工、青森県管理)により、度重なる洪水や濁水に対し効果を発揮してきたが、計画規模を超える洪水がダム完成後に相次ぎ、沿川市町村に甚大な被害を及ぼしたほか、近年では 2 年に 1 回程度の割合で濁水が発生しており、かんがい用水・水道用水の供給に多大な影響を及ぼしている。このため、抜本的な解決が望まれ、目屋ダムの再開発事業として、津軽ダムの建設が進められました。



<写真-1>「目屋ダム(手前)の下流に建設された津軽ダム(試験湛水前、平成 27 年 8 月)」



<図-1> 津軽ダム位置図

事業は、目屋ダムの治水・利水機能を維持しながら、目屋ダム直下 60m に新たな堤体を建設するもので、ダム諸元・型式は、堤高 97.2m、堤頂長 342m、堤体積約 76 万 m<sup>3</sup>の重力式コンクリートダムであり、総貯水容量は目屋ダムの約 3.6 倍の 140,900 千 m<sup>3</sup>、湛水面積は約 2.5 倍の 5.1km<sup>2</sup>となります。

昭和 63 年度に実施計画調査、平成 3 年度に建設に着手し、各種調査、補償、工事を進め、平成 20 年度にダム本体工事に着手し、平成 22 年 5 月には本体コンクリートの打設が開始され、平成 26 年 8 月に打設が完了となりました。

<表-1> 津軽ダム諸元

河川名	一級河川岩木川水系岩木川	
貯水池	流域面積	172.0km <sup>2</sup>
	湛水面積	5.1km <sup>2</sup>
	総貯水容量	140,900,000m <sup>3</sup>
ダム	型式	重力式コンクリートダム
	堤頂標高	EL226.7m
	ダム高	97.2m
	堤頂長	342.0m
	堤頂幅	9.0m
	堤体積	759,000m <sup>3</sup>
放水設備	取水設備	選択取水(多重式ゲート)
	放水設備	常用洪水吐き 幅4.3m×高さ4.4m×2門 コンジットゲート 幅3.9m×高さ3.6m(吐口)
総事業費	約1,620億円	

平成 28 年 2 月 13 日から試験湛水が開始され、少雪のため、湛水スケジュールが心配されましたが、ほぼ予定工程どおりに水位は上昇し、4 月 18 日には、洪水時最高水位(サーチャージ水位)に到達し、6 月 7 日には貯水池地すべり最下端標高まで水位を降下させ、9 月 7 日に試験湛水を終了しました。



<写真-2>「洪水時最高水位に到達し、非常用洪水吐から越流している様子(試験湛水中、平成 28 年 4 月)」



<写真-3>「紅葉が始まった白神山地と竣工した津軽ダム(平成 28 年 10 月)」

10月16日(日)には、ダムサイトにおいて、「津軽ダム竣工式」が関係者約 450 人出席のもと執り行われました。

開式に先立ち、地元西目屋村の西目屋登山ばやし保存会と西目屋村連合婦人会の皆様による「お山参詣」が披露されました。

竣工式は主催者側から葛西憲之弘前市長、関和典西目屋村長、三村申吾青森県知事(代読)、泊宏国土交通省治水課長の挨拶があり、続いて木村太郎衆議院議員、足立敏之参議院議員の祝辞のほか、地元西目屋小学校児童による「津軽ダムへの期待の言葉」が述べられました。水没した旧砂子瀬・旧川原平地区や事業のあゆみを映像で辿った工事経過報告を行い、この後、記念放流や移転された方々の代表による「故郷献花」、湖名碑の除幕などが執り行われ、代表者によるくす玉開披と続き、関西目屋村長の発声で万歳三唱を行い式典は無事終了しました。

世界自然遺産「白神山地」の玄関先に新たに出来上がった津軽ダム(津軽白神湖)が地域の皆様に幾久しく愛されるとともに、今後ともダムツーリズムを地域と一体となって進めていき、地域の活性化に寄与するものと大いに期待しているところです。



<写真-4>「ダムサイトで開催された竣工式」



<写真-5>「竣工を祝う、くす玉開披セレモニー」